

大磯小学校タイムカプセルの開封について

50年前の昭和48年(1973年)5月、大磯小学校開校100周年記念事業の一環として、小学校の北門脇に保存庫が設けられ、記念のタイムカプセルが収蔵されました。

このタイムカプセルは、開校150周年にあたる来年、令和5年(2023年)に開封するとされていましたが、当時の在校生有志で組織した実行委員会での協議で「事前に開封し確認作業を行うべき」との決定がなされたことから、令和4年(2022年)12月3日(土)に、カプセルの取り出し、開封作業を行いました。

この決定に至った経緯についてご説明いたします。

カプセルの開封事業については数年前から声が上がリ、準備委員会が設置され対応策が検討されていました。しかし、開校記念日までの日数が少なくなってきたことから、より実行性を持って作業を進めるため、町の広報等でカプセル埋蔵当時の在校生(昭和48年度～53年度卒業生)の有志を募り、10月29日、正式に「大磯町立大磯小学校タイムカプセル開封事業実行委員会」が立ち上がりました。

当初は、開校記念日の前後に開封記念式典を開催し、タイムカプセルの取り出しと開封を行って、出席者とともに50年の時間を共有できればと考えていました。

しかし、同時に作業を進めている国府小学校の状況を伺い、また、今年開校150周年を迎え50年経ったタイムカプセルを開封した全国の4つの小学校に聞き取り調査を行ったところ、すべてが「事前開封を行わざるを得なかった」との状況でした。

「内容物が劣化していて、式典で出席者を落胆させてしまうことを避けたかった」「開封式に会場希望者が集中し、コロナ対策として密を避けることも考慮」など、理由はそれぞれ異なりましたが、結果として4校とも「事前開封をして正解だった」との回答でした。

一方、後日、事前開封されたことを知った主に遠方の卒業生らから「なぜ開けてしまったのか」「周知活動が不足している」「やはり開ける瞬間を見たかった」等の意見が寄せられたことも事実として伝えられました。

これらを参考意見として実行委員会で検討した結果、「保存庫の周りはスペースが狭く人が集まるのは作業上も危険」「保存庫が頑丈で解体に時間がかかる」「収蔵物のリストがないため、返却するためには収納物の詳細な確認が不可欠」などの理由から、委員全員の総意として「カプセルの事前開封を行う」との決定に至りました。

合わせて、マスコミ報道等、様々な手段を講じて、事前開封を行った事実を周知させていくことを方針として示しました。

できることならば、同窓生の皆様と50年の時間を共有したかったという悔いはありませんが、公開イベントを安全に行うこと、そして、ひとりでも多くの方に思い出の品をお返しするという目的のために事前開封という方法を取らざるを得なかったことを、何卒ご了承ください。

今回、事前開封を行い、マスコミにも公開したことから、5月27日は「開封式」ではなく「タイムカプセル開封イベント」として、単なるお披露目にならないよう実行委員会で企画、検討を進め、情報の更新を行っていきます。

2023年5月27日(土)、一人でも多くの同窓生の方と再会できることを楽しみにしております。

大磯小学校タイムカプセル開封事業実行委員長 松原宏樹
実行委員一同